

2学期最初の研究授業は、本年度2回目の池谷先生です。本校は国語科の研究の指定を受けていますが、今年は新CSを理解していくために、他教科の研究授業も行っています。今回はH32年度から全面実施される「外国語科」を意識し、新しい外国語の授業を提案していただきました。

最終板書



研究協議より

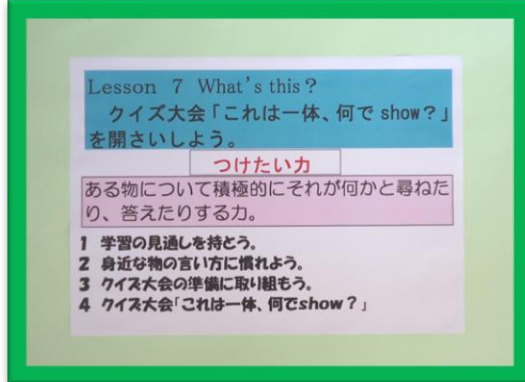
- ・育成すべき「資質・能力」を付けるために、適切な言語活動であるか。
- 「クイズ大会をしよう」という言語活動は良いが、何のための（目的意識）クイズ大会なのか。
- 「スリーヒントクイズ」は自然とやりとりする場が作られ、お題を統一したことでより積極的になっていた。
- ・単元の目標を達成するための単元計画になっているか。
- 始めにALTとの「スモールトーク」をしたことで学習のゴールイメージが持て、児童に意欲を持たせることができた。「スモールトーク」でヒントの出し方の工夫（本時のポイントとなる点）が理解しやすい流れとなっていた。
- ・本時の目標が達成できたか。
- ▼学習活動（内容）とめあてにズレがあったのではないかと。今回の授業で日本語と似ているところや違いに気付かせる必要性があったのか。→（代案）「クイズ大会をするために、身近なものの言い方を知ろう」（今回の本時のめあては2時間目でもよかったのでは。）
- ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は成立していたか。それはどんな事実か。
- 教材の工夫（見せ方）により、子どもたちの「やってみたい」「話してみたい」という主体的な活動へとつなげることができていた。また、クラスルームイングリッシュで評価を適宜入れており、子どもたちも英語を使おうとしていた。
- 友だちとのかかわりができる仕掛けがたくさんあり、子どもたちは意欲的に活動できた。振り返りの記述にも自らの学びを見つめ直す主体的な学びが感じられた。
- ▼クイズのお題を文字ではなく、絵や写真にすると、色や形がイメージしやすく、英語で伝えるヒントになったのでは。
- ・「外国語におけるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせた児童の姿は見られたか。
- ▼コミュニケーションが日本語になりがち。日本語でもOKではなく、もっと英語を使わせないといけない。

単元名:「Lesson 7 What's this?」 **提案授業:**5年1組 池谷 康史 教諭

身に付けさせたい資質・能力:

- ・ゆっくりはっきり話されれば、自分のことや身近で簡単なことについて、簡単な語句や基本的な表現を聞きとることができるようにする。【聞くこと】
- ・自分や相手のこと及び身の周りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えることができるようにする。【話すこと】

学習の流れ



授業の流れ

担任の池谷先生とALTのジュリアン先生との英語のやりとりをしてゴールイメージを持たせます。



Small Talk

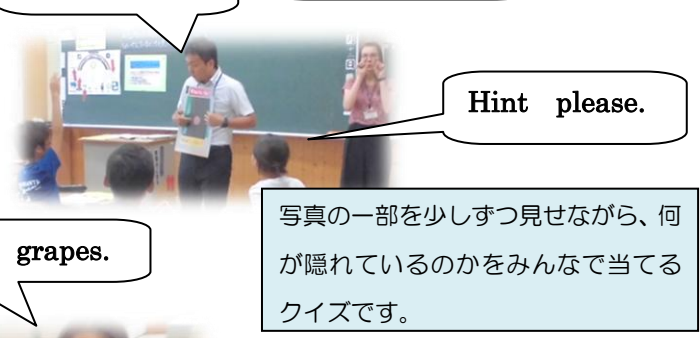
Three Hint Quiz



Hint 1. It's a fruit.

3つのヒントで当ててもらおうクイズです。ヒントの出し方がポイントになります。答えは周りに聞こえないように紙に書いてもらいます。

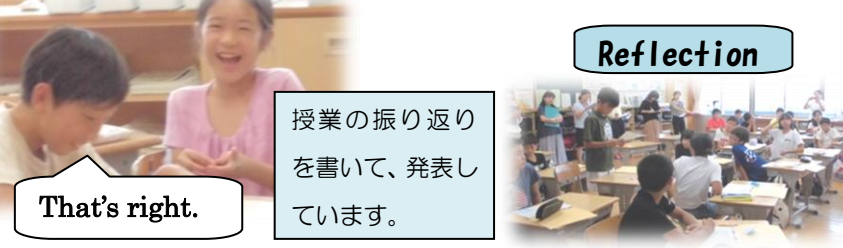
Picture Quiz



It's grapes.

写真の一部を少しずつ見せながら、何が隠れているのかをみんなで当てるクイズです。

Reflection



授業の振り返りを書いて、発表しています。

授業者のリフレクションより

- ・板書の際、色や形と言った言葉も、color, shape というように英語で表記してみる。もし、スペルに自信がなければ、ALTに書いてもらう。
- ・中学校のAll Englishの授業を目指して、Japanese OKではなく、外国語をどれだけ使わせるか、英語を使えない子どもが使えるようになるために、教師が意識してコミュニケーションの中で外国語を活用させていく授業づくりが大切になると思う。

指導主事より

- ・先生の苦手意識はどここの学校でも見られる。しかし、まずはチャレンジ。はじめは失敗してもOKなので英語でコミュニケーションをとりながら先生も学んでいくことが大切。苦手だったのが教え方が分かると楽しくなってくるはず、のびしろが大きい教科である。今年は、池田先生とジュリアン先生がサポートして下さるので今を逃さないように。子どもたちは先生が一生懸命英語で話す姿を見ている。ALTと連携し、All Englishを目指してほしい。
- ・「見方・考え方」を働かせた姿とは・・・例えば、今回の授業であれば「どういう表現を使えば、伝えたいことが伝わるのか」をやりとりの中で考えている姿。「Three Hint Quiz」でだんだんと分かりやすくするヒントを出したい時に、どういう表現をするとよいのか、その言葉よりこの言葉の方がより伝わると考えることが、外国語の語彙を増やしていくことにもつながる。

夏休みの外国語の研修から先生自身が主体的に学び、あれこれ教材を工夫しながら初めての外国語の指導案を作成し、授業を提案して下さった池谷先生、ありがとうございました。前日には、指導主事からのアドバイスがあり、遅くまで池田先生と授業の話をしている姿を見かけました。前回の外国語の授業と同じく、チャレンジ精神で臨んでくださっています。授業始めのスモールトークには児童も参観している私たちも引きこまれてしまいました。指導主事の講話で見たDVDの中学生の英語には驚きを隠せませんでしたが、楽しそうに英語でやりとりができる子ども達を育てるために、私たち教師も外国語でのコミュニケーション力を磨いていかないと感じたことでした。

